

金澤古蹟志卷廿七

城西木新保筋

○東御坊町

俗に末寺前と呼べり。此の町名は、元祿九年の地子町肝煎裁許附に、東御坊町とあり。但し此の町内は東本願寺の門前なりし故に、昔は東末寺町と呼べり。慶安二年四月金澤町奉行への達書に如左見ねたり。

權現堂町・兩末寺町、其外町並につゞき町を立有之處之儀、本町同然、諸法度以下諸事、町奉行より可被_レ申付候事。

慶安二年四月十二日

津田玄蕃頭

葛巻隼人正

横山左衛門尉

長九郎左衛門尉

奥村河内守

宮城采女殿

又萬治二年七月奉公人請合狀に、大工九郎兵衛先年東末寺町に罷在候。と記載せり。明治四年戸籍編成の際、横安江町とす。

○奥野主馬舊邸

今東本願寺別院の地なり。専光寺由來書に、利家卿の時、御城後。町に在之専光寺をば、東本願寺の別院に相立、東末寺と稱し、利常卿の時、右後町の寺地を奥野主馬上_ツ屋敷へ所替被_レ仰付。と見ね、三壺記に、寛永八年の火事以後、本願寺末寺有之後町の地侍屋敷に成るに付、奥野紀伊守屋敷へ家を買すゑにして渡りけり。とあり。

○奥野主馬氏次傳

奥野氏の祖讚岐某、若名彌一郎と云ひ、利家卿に奉仕して、武功を以て追々加恩ありて、五千五百三十石を賜はり、慶長十二年没す。此の子紀伊氏清家を繼ぎ、父の遺知其の儘賜はり、元和四年没す。數子あり。長男主馬氏次は家を繼ぎ、五千石を賜はる。妻は前能登侍從利政君の息女なり。數子あり。長男を治部左衛門と稱す。五百石配分知を賜は

脇田 九兵衛殿